

# 神奈川県基地関係縣市連絡協議会による 令和5年度基地問題に関する要望の実施結果について

県と基地に関係する8市（横浜市、相模原市、藤沢市、逗子市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市）で組織している神奈川県基地関係縣市連絡協議会（会長：黒岩 祐治）は、令和4年8月9日（火）に、次のとおり要望を行いました。

## 1 要望先

内閣総理大臣	岸田文雄	環境大臣	山口 壯
財務大臣	鈴木俊一	防衛大臣	岸 信夫
総務大臣	金子恭之	防災担当大臣	二之湯 智
外務大臣	林 芳正	原子力規制庁長官	片山 啓
厚生労働大臣	後藤茂之	内閣官房副長官補	高橋 憲一

## 2 要望内容

令和5年度基地問題に関する要望書のとおり

### 【重点要望項目】

- I 米軍基地の整理・縮小・早期返還を推進されたい。(P.3)
- II 厚木基地における航空機騒音を解消されたい。(P.5)
- III 米国原子力艦の事故による原子力災害対策を強化充実されたい。(P.8)
- IV 日米地位協定の見直しを行うとともに、その運用について、適切な改善を図られたい。(P.11)
- V 住宅防音工事等、騒音対策の充実を図られたい。(P.16)
- VI 国による財政的措置及び各種支援策を充実されたい。(P.17)

## 3 要請結果

県副知事及び各市副市長が外務省及び防衛省で要望活動を実施（他は郵送等）

外務省（対応者：馬場 隆治 北米局日米地位協定室長）

- 米軍施設・区域の縮小及び早期返還は徐々に行われてきている。既に返還が合意されている施設・区域に関しては、早期返還に向けて引き続き取り組んでいく。
- 空母艦載機の恒常的な訓練施設については、馬毛島で整備に向けた準備を進めている。防衛省と連携し、引き続き地元の理解を得る努力を続けると同時に、施設の早期整備に向けて取り組んでいく。
- 米軍機の騒音は深刻な問題であると認識しており、空母艦載機の移駐した現在も騒音の影響が最小限になるよう取り組んでいく。
- 原子力災害対策については高い水準で安全性にコミットしていると承知しているが、万が一を想定し、安全に万全を期するよう引き続き米側に求めていく。
- 日米地位協定については、効果的にかつ機敏に、一つ一つの具体的な問題に対応してきている。
- PFOS等、環境分野の問題については、様々な関係省庁と連携しながら取り組んでいく。
- 新型コロナウイルス等の感染症対策については、日米合同委員会の下に設立された検疫・保健分科委員会を通じ、緊密にかつ迅速に、日米の間で連携してきている。

防衛省（対応者：深澤 雅貴 地方協力局長 及び 藤井 真 東日本協力課長）

- 米軍基地の整理・縮小・早期返還に向け、引き続き努力する。根岸住宅地区については、原状回復作業を進めている。
- 空母艦載機の着陸訓練は、引き続き、硫黄島での実施について米側に理解と協力を求める。また、恒常的な訓練施設について、馬毛島において、環境影響評価法を遵守し、適切に手続を進めているところである。整備については適宜、関係自治体に情報提供する。
- 厚木飛行場周辺の騒音軽減について、米側に対して、航空機騒音軽減措置の遵守や地元の重要な行事に配慮するよう申し入れを行っている。航空機運用による影響を最小限にとどめるよう、引き続き米側に求めていく。
- 空母艦載機移駐後の厚木飛行場の騒音は、相当程度低減しているものと認識しているが、引き続き騒音状況の把握に努める。
- 日米地位協定について、様々な意見があることは承知している。事案に応じて、効果的かつ機敏に対応できるよう、一つ一つ対応していく。今後とも、目に見える取組を積み上げることで、地位協定のあるべき姿を不断に追求していく。
- 日米間では新型コロナウイルス感染症に限らず、日米合同委員会の枠組のもと、在日米軍関係者に対する検疫、感染症対策に係る情報共有が適切に行われると認識している。引き続き、関係省庁、米軍と緊密に連携して、適切に対応していく。
- 第一種区域等の見直しに向けた騒音度調査については、6月から調査に着手している。調査の実施にあたっては、航空機騒音の現状を把握し、騒音の実態をしっかりと評価する。また区域見直しに際しては、南関東防衛局ホームページによる情報提供や、地元住民の方々への説明の場を設ける等、適切に対応する。
- 基地周辺対策経費の所要額確保について、引き続き努力していく。